

駒の館だより

明治鍼灸大学図書館報

第 13 号

平成 6 年 3 月 1 日 発行

明治鍼灸大学附属図書館

〒629-03 京都府船井郡日吉町
TEL. 0771-72-1181(代)

目 次

○ 新米館長就任の弁	森本安夫	1
ここを変えました	附属図書館	3
お知らせ … 一般雑誌の廃棄	附属図書館	4
図書館データ、データ	附属図書館	5
図書館へちよっと一言 角谷英谷、鈴木千浩、片山 修、西川さおり、中村 満		6
駒の館趣味のコーナー 渡 仲三		11
私の読書 … お薦めの一冊 市川 哲		11
○ 図書館学うんちく 福田代見		13
記事 … 図書館一般公開 附属図書館		15
新着東洋医学図書 附属図書館		16
編集後記		16



新米館長就任の弁

図書館長 森 本 安 夫

テオドトス：やめてくれ、それは人間の歴史なのだ。

シーザー：恥ずべき記録だ。そいつを燃やしてしまえ。

バーナード・ショウ “シーザーと

クレオパトラ”より

史上初の文化弾圧、墳書坑儒を断行した秦の始皇帝に遅れること170年にしてやっと古代西洋世界でもそれをやった独裁者カエサルと歴史家テオドトスとの、エジプト民衆とローマ軍隊との衝突で燃え盛るアレキサンドリアの古代図書館前での会話である。一般に権力者、独裁者にとって目の上のタンコブとなるのは人とその思想、ついでそれを表現する図書ということになるでしょうか。我が明治鍼灸大図書館も弾圧の対象、略奪の対象となり得るような立派な図書、資料を満載したいものです。

話がずれてしまいました。1993年は変な年でした。寒い夏、大好況の後の大不況、雨が降りすぎて薩摩は土がめくれてしまいました。台風と冷夏は我が瑞穂の国に米輸入のプレゼントまでしてくれました。おまけに自民党までこけてしまいました。遠く海外では長江とミシシッピで大洪水がおこり、PLOとイスラエルが和解してしまいました。そして鍼灸大ではなんと物理の教師が図書館長になってしまいました。そこで挨拶。

“平成5年度より中村（清）前館長より役目を引き継ぐことになりました。本人は物理の教官であり図書館行政に関しては全くの素人ですし都合の悪いことに15年間勤務しておられた超ベテランの主査八木さんが本年を以て定年退官されました。後任として吹田の専門学校より福田（代）氏がやって来られましたが、彼もまた図書館は初めての経験で、ただ一人伝統を引き継いでいる司書の織田さんが頼みの綱という状況になっております。従いまして利用者の皆さんにはしばらくの間ご迷惑をおかけすることになると思いますがこしばらくはご辛抱の

程をお願い申し上げます……………”云々。

というような殊勝なことは実は今まで一度たりとも口にしたことはなく、ふんぞり返ってユーザとして図書館員にあーだ、こーだ、あーせー、こーせーと種々の文句、要求の限りを尽くしてきました。今回立場が180度転回してしまいました。戸惑うことしきりです。しかしながらこのような態度は今になってみると正しかったのだと自負しております。図書館は図書、資料を整理、保管してそれをユーザに利用してもらって始めてその価値を発揮できます。それは丁度八百屋ならば大根一本、キャベツ一玉を売ることが、また教師なら学生にキチンとした知識を教授することがその使命であることと同じです。要するに客商売ということです。客商売にあたってもっとも重要なことはユーザの要求ということになります。皆さん、図書館にドンドン文句を言ってきてください。要求を突きつけて下さい。外部世界との接触こそが組織の化石化を救い、生き生きとした図書館を形成する基となるものです。全てを受け入れることはできないかも知れませんが最大限の誠意を以て行動して参ります。

大体は前館長の跡を踏襲すれば大過なくやれることとは思いますが、なにしろ世界は動いております。図書館もその波に洗われるのは確実です。今後以下のような事項について努力をしてみようと思っております。勿論それ以外にも多くのことがなされる必要がでてくることでしょう。そのときはどうか遠慮なくお申し出頂きたいと思えます。

- (1) 情報検索の電子化の推進：現在非常に初歩的な形で図書館で行われているのはご存知と思えます。まだまだ不十分です。データベース化、CD-ROMの利用、あるいは他大学の図書館とのネットワーク化等が近い将来のターゲットになってくるものと思われまふ。一挙にはできませんが先鞭を付けることくらいは必要となるでしょう。
- (2) 貸出業務の自動化：現在図書の貸出には

皆さんに一つ一つカードに書くといった操作をしてもらっておりますがかなりな数の図書館ではバーコード読みとりによるカードレス化が実施されているようです。当図書館でもこの方式を推進してゆく予定です。

- (3) 視聴覚機器および教材の充実：活字離れのせいばかりでもないでしょう、おそらく見て非常に分かりやすいということで図書から視聴覚教材への移行が大きな潮流になっているようです。現在図書館にはビデオ機器が3台と少量のビデオ教材があるのみで寂しいかぎりです。今後この方面の部材を増加させることを諮ってゆきます。
- (4) 開架図書の増加：かなりの数の学生諸君から苦情、希望がよせられています。もっ

と自由に閉架内の図書を見たいと。もっともな要求ではありますがこの図書館が当初閉架主義で発足したため、すぐにこれを全部開架にしてしまうには少なからぬ問題があります。とりあえず現在の開架図書を倍增することでなんとか切り抜ける予定にしております。当面はその程度でご容赦願いたいと思います。将来的には医学書、東洋医学書を中心に1万冊程度を開架に出すことを計画しております。

当面このあたりを見据えて徐々に図書館にも変革の波を引き起こす必要を感じております。任期2年、その間精いっぱい努力を発揮するつもりでおります。しばらくの間暖かい目で見守って頂くようお願い申し上げます。

ここを変えました

附属図書館

ほんの少しですが図書館の中をいじってみました。皆さんの利用に便宜があれば幸いです。

(1). 図書検索

受付カウンター横に設置しました。著者名、書名、分類番号等で検索できます。当図書館としても始めてのこととてまだ十分には生かしきっておりません。十分に御利用頂いて御意見をお寄せ下さい。残念ながらデータベースは持っておりませんのでキーワードによる検索はできません。



(2). ビデオコーナ

今まで電源の都合でほとんど利用できませんでしたが、現在3台使用できるようにしました。テープは従来どおり受付で申し込んで下さい。今後視聴覚関連の教材も大幅に増加させる予定です。おおいに御利用下さい。なおビデオも図書と同じように貸出致します。

(3). 意見箱

学生便覧にはあるように書いていありますが、今までありませんでした。入り口横のカードボックスの上に設置しました。意見、文句、不満、注文何でも結構です。もちろん口頭でも結構ですが面と向かって言いにくいときなど、御利用下さい。お待ちしております。

(4). 自由閲覧コーナ

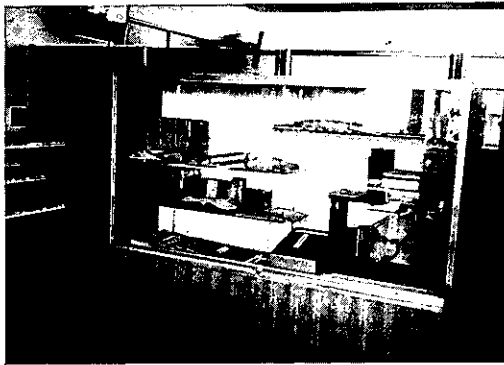
従来閉架書庫にしまっており未登録の図書、雑誌（主に寄贈による）を書庫と閲覧室の境に陳列しました。特に医学及び医学関連の学校の紀要はもれなく並べておきました。また一般雑誌で新着雑誌棚に納まりきれない分も此処に保存して置きます。参考にして下さい。

(5). 古書展示

入り口右手に今まで卒業記念の動物鍼灸関係の展示のあった所へ古書の展示棚を設置しました。古書は今まで書庫の片隅に積まれていたも



のです。動物鍼灸と古書とどちらを置くべきかを迷いましたが古書を選んでしまいました。動物鍼灸は現在学習棟3階標本室に移っています。古書の実際的な価値は当方には理解しかねますが、しばらくは眼を楽しませて下さい。とにかく古いので直接手にとって読んで頂くわけにはいきませんが、そのうちマクロフィルムにでも写せればと思っております。



(6). 開架図書増加

開架の場所にかなりなスペースがありましたので可能な限り図書を開架に出しました。平成

5年4月で4,700冊ありましたが現在7,000冊程度に増えているはずですが、でもまだまだ不十分と思っております。今後開架用書架の増設を考えております。お願いがあります。開架図書は自由に閲覧できます。問題は読み終えたとき、多少本を汚すようなことがあっても眼をつむります。その代わり必ず元の場所へ返して下さい。冊数が多くなると間違った場所へいった図書は、みつけるのに気の遠くなるような労力が必要になってきます。

(7). 新着図書案内

入り口左手の専用書架の上に最近入荷した図書のリストをファイルしてあります。図書館にて購入したもの以外に各先生方が個人研究費で購入されたものもリストされています。参照して下さい。

(8). 雑誌案内

受付カウンター横、新着雑誌棚に本学に入れてある全ての雑誌のリストを用意してあります。

(9). 雑誌架増設

閉架書庫内に広いスペースがありましたが、やっとここに書架を入れることができました。ここには今まで保管場所が無く山積になっていた製本雑誌(主に和書医学)を配置しました。随分と利用しやすくなったと思います。

(10). 病院保管雑誌

臨床の場で利用することの多い雑誌は新着の分は病院で保管されております。1年経過したところで図書館に引き取り製本作業をいたします。従って今までそれらの雑誌については新着雑誌置き場にできることは無かったのですが、今年より1年遅れになります。病院より引き取った雑誌を1年間新着雑誌置き場に置くこととしました。ご利用下さい。

お知らせ

一般雑誌の廃棄について

附属図書館

学術雑誌として認定された雑誌は製本し登録され永久保存しますがそうでない雑誌は一般雑誌としてほぼ3年間保存した後廃棄することになっております。皆さんのなかにはいろいろな趣味をおもちの方がおり、雑誌の引き取りを希望される方も多いと思われま。従来廃棄の方

法、時期等ははっきりとしておりませんでしたので、ここでお知らせすることにしました。

①廃棄方法

3年間は新着雑誌棚あるいは自由閲覧コーナーの書架に展示されております。3年を過ぎます

とその年の1月10日前後に図書館前廊下に並べます。希望する方は自由にお持ち下さい。先着順とし図書館としては仲介の労はとりませんのでご了承下さい。

②雑誌名

文芸春秋、中央公論、諸君、アサヒグラフ、文学、現代思想、科学朝日、ビット、時事英語研究、日経メデイカル、中国語講座、基礎ドイツ語、芸術新潮、ニュートン、毎日ライフ、丹の街。

図書館データ、データ

附属図書館

従来図書館についてのデータが外部の皆さんに流れたことはありません。これは別に秘密にしているわけではなくて、それを発表する適当な場所がなかったことにあります。当然図書館報はこの役割を担わなければなりません。そう考えて今回より今まであまり知られていなかった図書館のデータを紹介することにいたしました。そのことでより一層図書館に親しみを持って頂きたいものと思っております。今回は基本となります蔵書数の話からいってみることにします。なお出典は全て図書館運営委員会の議事録によっております。

表をご覧ください。短大開学当初からの蔵書数の推移を示します。昭和53年に14,664冊から始まって平成5年3月31日には37,828冊にまでなっております。これをグラフにしてみましょう。図1をご覧ください。各分野別に示してあります。昭和57年に大幅な増加をしているのは短大から4年制移行に対応したものです。同じことは平成3年、大学院開設に伴ってみられます。これら特殊な時期を除きますと年平均1,200冊程の増加をみることが出来ます。多いに役

年度	人文、社会	自然科学	語学、体育	現代医学	東洋医学	合計
S53	3544	1272	1617	8231	*0	14664
54	3657	1353	1664	8710	0	15384
55	3834	1523	1713	9107	0	16264
56	4244	2293	1786	9194	0	17430
57	5687	2706	2514	13139	0	24046
58	5840	2935	2570	13787	0	25132
59	6128	3127	2628	11585	2887	26355
60	6362	3387	2837	12133	3015	27734
61	6748	3651	2939	12693	3106	29137
62	6925	3886	2969	13401	3207	30388
63	7184	4132	3011	14089	3345	31761
H1	7335	4362	3055	14684	3471	32907
2	7501	4585	3089	15341	3648	34164
3	7748	4899	3147	16555	4403	36752
4	7930	5102	3180	17118	4498	37828

* 東洋医学関連の図書が0冊ということではもちろんない。昭和58年までそのような分類がなされていなかったことによる。

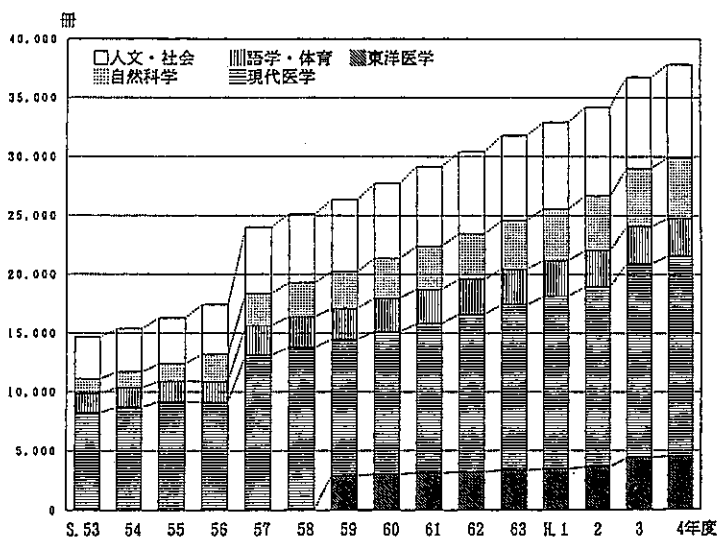


図1 図書蔵書数

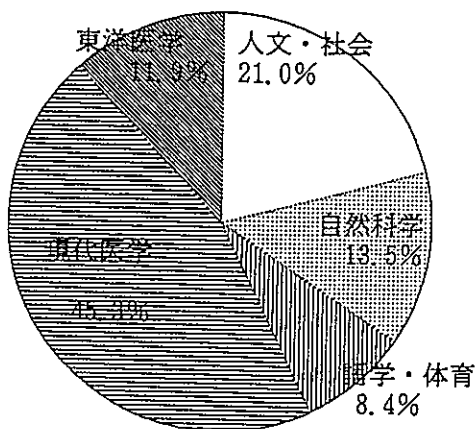


図2 平成4年度 蔵書分野別割合

立てて欲しいものです。さてその内容はどうでしょうか。図2をみて頂くと平成4年度の分野

別図書構成が示してあります。一般教育関連が16,212冊で43%、専門分野が21,616冊、57%という割合になっております。随分と一般教育関連の図書が多いように思われるかもしれませんが、我が大学ではその方面の先生も専任で勤務されており（普通規模の小さい私学では非常勤講師に頼ることが多い）研究、教育活動もまた活発に行われていることの反映であり頼もしいかぎりです。専門分野では現代医学系が17,118冊、45%に対して、東洋医学系図書は4,498冊、12%と意外に少ないことが見られます。これは決して東洋医学系の図書を毛嫌いしている訳ではなく、単に発行されている図書が少ないという事情によります。是非とも本学の先生、あるいは卒業生の諸君が頑張ってお立派な東洋医学系の図書を執筆して頂きたいものです。

図書館へちょっと一言

今まで先生方より原稿を頂いて図書館報を構成していましたが今回より少し趣向を変えて利用頻度の高い学生諸君からも原稿を募集することにしました。学生諸君の立場からの意見、希望、苦情等をどしどし寄せてもらいたいと思っております。初めての試みですので誰に書いてもらうのか、何を書いてもらうのか、何もかもははっきりしておりません。当方の独断で人選をさせて頂きました。定着すればもっと多くの人に自由に発言して頂けるものと期待しております。



大学院
角谷 英治

ひと昔前、自分自身、活字として印刷された書物の内容を単純に信用してしまうことが多かった。しかし最近ではこの傾向も薄れてきた。時を経てそれなりに色々な知識を得たせいもあるかもしれないが、論文を読む機会が多くなり、ワープロ等の普及により自分の考えた、陳腐な文章でも、いとも簡単に立派な活字として印刷する事ができるようになってし

まい、見た目の立派さとその内容の妥当性とは全く別の次元である事がよく理解できるようになったためであろう。

書物・出版物は、例外なく著者や出版者の特定の意図のもとで発行されるもので、どのような人が、どのような立場で、いつ書いたかという事が重要である。

その内容をよく理解するためには前書き、目次、後書きなどをよく読む必要があるという事はよく言われるところである。

これらの事を頭の片隅に入れておくと、ある事柄について複数の本に異なった内容が書かれている場合に、どれに妥当性があるかの判断の一助となるであろう。

さて、図書館も本年4月に館長が変わって半年以上たち色々改善され（図書の検索・閉館時間など）、利用しやすくなった面も多くなったようだ。自分自身、院生になってから図書館にいる時間は学部生の時の半分以下になってしまったが、もっとみんなが利用しやすくなるために改善してもらえたらと思う点をいくつか挙げてみたい。

1. 雑誌の種類をもっと多くしてほしい（特に値段が高くて個人では手に入れにくい外国

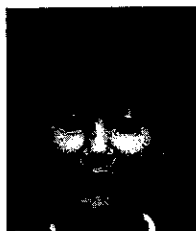
の雑誌など)

2. 雑誌の中には病院の方においてあるものがあるのでそれらは図書館の方に集中してほしい。
3. コピー機が少なく、コピー代が高い。
4. 指定図書の出借期間をもっと長くしてほしい。
5. ビデオの貸し出しもしてほしい。
6. 学生等が多いときには館内がうるさくなりがちなので静かになるように徹底させたほうがよいと思う。

以上である。種々の条件でなかなか改善できない点もあると思うが、前向きに検討して頂けると有り難い。

利用する側からの要求ばかり書き連ねてしまったが、利用する側にも注意しなければならない点もある。うるさい、図書に書き込みをしたままにする。本の貸出期間を守らないなどはまだましな方で、一部には本をだまっておいて帰ってしまったり、卒業していった学生のロッカーから図書館の本が出てくることもあるそうである。これらは単にモラルだけの問題ではなく経費的にもかなりの損失があるものと思われる。これらのことがなくなれば図書館の運営にかなりプラスになるであろう。

現在、我が大学の図書館は単科大学にありながらそれなりに充実していると思う。最近、回りの意見を取り入れて改善していこうという姿勢が良く伝わってきており、この図書館がさらに充実していくことは間違いないであろう。



図書館を卒後教育へ

研修鍼灸師
鈴木千浩

研修鍼灸師にとって図書館を利用することは当たり前のようになっていますが、改めて考えてみると、わたしたちは研修鍼灸師として実際の臨床の場で、現代医学と東洋医学、鍼灸、そして病院の中での医療人としての考え方や責任などについて、学び、医療の現場で実際の経験をつんでいます。

そんな臨床の中での勉強や研究、論文、そして各科の勉強会などに図書館を利用していますが、学生の時のようなレポートのための一時的なものではなく自分の目標となることを調べていく上でとても重要なものです。

そして、そんな生活の中で図書館の書庫で本に囲まれながら、わたしはいつも思うことが二つあります。一つは、今の自分のいる環境は求めて努力すれば必ず光が見えてくる、勉強しようと思えば、いくらでも勉強できる。研修鍼灸師だから勉強するのではなく、研修鍼灸師だからこそ、経験し、学ぶことができることを深く考え、この環境に流されることなく、舟と楫はあるのだから、後はどのように漕いでいくかは自分次第であると思い、『勉強ができる環境』に感謝しています。

そしてもう一つ思うことは、卒業後のことです。卒業して、すぐ社会に出て就職された先輩たちから自分の知識不足などで実際の臨床で困ったことや、業務に追われて勉強する機会がなかったり、新しい情報が得られにくいなどの話を聞くことがあります。また、〇〇に関する文献がほしい、△△に対する治療法が知りたいなど、私も実際に就職した卒業生から頼まれたことがあります。

なぜ彼ら卒業生に情報を得る機会がないのか？これはとても悲しいことだと思います。大学の教育方針の『指導的人材の育成』は大学内だけのものではないはずです。全国に就職していった多くの卒業生もこれからの指導的人材として活躍すべき人たちですから同じことだと思います。大学院、研修鍼灸師を含めた卒後教育こそが真の指導的人材の育成となり、指導的立場の卒業生が全国に広がり活躍する事が鍼灸の発展となり、社会への貢献と成るのではないかとおもいます。大学の教育も若い人材に育成に重要ですが、その後をどうするのか、もう真剣に考えなければならないと思います。

わたしは、この卒後教育の一端として、卒業生にも図書館を開放し、自由に文献を検索できればと希望します。実現にはいろいろ難しい問題があると思いますが、これは卒後教育の中の一つの扉だと思います。

今年から図書館内の書籍が整理され、書籍や専門雑誌も増えることと思います。多くの学生

や卒業生が利用し、お互いにコミュニケーションができれば、机の上の勉強や実習では得られない物が得られると思います。

私たちはもっと自分たちの環境について真剣に考えるべきだと思います。環境は変えられる。動くのは、まずは自分から。

そして隣の人へと……それが大きな力となり、大きな発展につながるのではないかと考えています。



図書館についての作文
—ある不真面目学生
の見た図書館—

4回生
片山 修

4年生になって初めて図書カードを作り、そのくせ今だに本を貸りたことのない僕がこんなところへ出てくるというもおかしな話ですが、そういう奴の戯言を聞いてみるのもまた一興ではないでしょうか。

僕は一年生の時から教科書販売で指定された教科書・参考書はほとんど全部買った。各教科の先生が良いと思った本なのだから、それが一番良い、その本が全部理解できれば他の本は必要ないんだと考えたからだ。さらに、買った本をろくに読みもしないうちに図書館でいろいろ探したり、やたらに買い込むのは良くないことだと決めつけていた。そんな訳で、図書館と言えばよく行くのだが暇つぶしに本をパラパラ見たり、昼寝をしたりする所となっていた。

しかし学年が上がるにつれ実験などのレポートが忙しくなってくると、自分の本だけでは対処しきれない面が出てきた。そうなるに頼りになるのが図書館で、一冊の本を熟読することも必要だが絶対視してはだめなのだ、自分の間違いに気づいた。それからはいく読むようになったのかというとはそうでもないのだが、最近就職の事もあって鍼灸界の動きを知るために東洋医学関連の雑誌をよく読むようになった。

とまあ偉そうな理由を並べてきたが、正直なところは勉強する意欲もあまりないし面倒くさいしといったところが大きい。図書館に関する限り、僕のような不心得者にはひまつぶしの

場所と、たまにわからないことを調べるくらい存在以上にはなれないようだ。積極的に貸りては読んでいる人を見ると、本当に頭の下がる思いである。

若いうちに沢山本を読んでおくと親や先生からよく言われる。そのうち、あの時もっと本を読んで勉強しておけばよかったと後悔する日が必ず来るぞと恐れながらも、残る学生生活をどう遊んで過ごそうかと西日のあたる図書館の机でうとうとと考えている。



3回生
西川 さおり

私が明治鍼灸大学に入学して、早3年が経過しようとしている。この約3年の

間に、講義、実習そしてその他の活動時に様々な学校施設を用いてきた。利用している施設は、大学に入学して初めて利用したもの、または高校以前にも利用していたものと二分される。図書館においては後者に当てはまり、学校施設としては何の変わりはない。しかし、図書館の利用方法が、高校までは主に本を読み楽しむ場所として比重を置いていたのに対し、今では、将来必要になるであろう知識を得る場所と変化した。

高校生の時の話になるが、その頃の私が手に取る本というと、授業で用いる教科書及び参考書などの学校から指定されるものと小説であった。この読む小説のほとんどが高校の図書館で貸りたもので、週に1、2冊ほど読んでいたのではなかっただろうか。他の人と比べ、私は読書量が多かったのか、または少なかったのかどちらか解らない。しかし、日常生活の中で、常に本（小説等）と接することが出来たのは、小さな頃から読むことに対する抵抗感が無かったことや、特に図書館の存在があったからだと思う。そこは、図書館という名称の通り、様々なジャンル、新旧を問わずかなり多くの書物を蔵していた。おそらくこのことが、図書館に足を向ける切っ掛けになったのだろうし、又、一般の図書館に引けを取らない程静粛であったために、勉強することにおいても適した場所であったことも一理あるように感じる。今思うと、そ

の頃の私にとって図書館は、余暇を楽しむための大切な場所だったにちがいない。

ところが、大学に入学すると利用の仕方が一変した。蔵書のジャンルが、高校までとは大きく異なっていることも理由の一つであるが、今まで提出することの無かったレポートや、それ以外での調べ物に追われる様になったことが、利用方法を変えた一番の理由であるかと考える。上記のレポート作成においては、特に2年頃の実習時において様々な事柄を調べるために、かなりお世話になった。時には初めて手にする分厚い医学専門書への戸惑い、価格の高さに対する驚き、又、どの本に疑問点に適した内容が載っているか、等の思いが約3年の間に数多くあったが、その都度図書館に行き、これらを解決してきた。今では、以前と比べレポート提出も少なくなり、幾分利用回数は減ってきたが国家試験後、自分自身の興味を持った分野について調べる際、そして雑誌などで医療の現状を知る際、大いに利用していこうと思っている。

情報源としての図書館は、日進月歩ならぬ秒進分歩の現状において様々なジャンルの書物と出会え、手に取りじっくり見ることが出来る場所であると考え。今後そこで、楽しむため、知識を得るため、又これらとは異なった目的で多くの書物と出会うだろう。たとえそれらの手に取る書物が、一つのジャンルに片寄っていたとしても、様々な情報に目を向け、理解することによって、これからの人生に役立っていくにちがいない。

「ユーザーから一言」

京都駅前鍼灸センター

中 村 満

JR京都駅前に附属の鍼灸センターがオープンしたのは“平成”に年号が代わった年の6月でした。早いものでもう5年経過し“昭和”に懐かしささえ覚えるようになってまいりました。

駅前センターは皆様のおかげをもちまして順調に発展し、来院患者数は延べ9千人を越えました。1日当たりの平均患者数はまだ10名あまりですが、4台のベッドで2人の治療スタッフ

が落ちついた雰囲気では鍼灸治療を行うにはちょうど良い人数かもしれません。

オープン以来駅前センターの患者管理には大学事務から頂いたパソコン・PC-9801を使ってきましたが、フロッピー・ドライブの故障のため、ようやく新しいコンピューターを購入することになりました。機種についてはアップル社のマッキントッシュのほかウィンドウズや今後発売されるパワーPCなど話題に事欠きませんが、大学の鍼灸センターや東医教室系との互換性からマッキントッシュに決まりました。大学に稟議書を出してから購入まで10カ月を要しましたが、その間にマッキントッシュの新機種攻勢と値下げがあり、おかげで最初の見積り時の機種より少し上位の機種が購入できました。現在はスタッフの岡本先生が10カ月の遅れを取り戻すべく、患者管理のシステム作りに精をだしています。

マッキントッシュを使用してみるとその使いやすさからなぜ売れるのかがよくわかります。電源スイッチをONし画面のアイコンをマウスで操作するだけで、ほとんどの作業を行うことができ、キーボードの操作は文字を入力する以外必要ないのです。

10年前“パソコン=BASIC”と考え、一生懸命BASICの勉強をしたり、MS-DOSを“呪文”のように覚えたのは一体何だったのかと思わせます。

昔は値段が高かったせいもありますが、コンピューター導入の話をする上司から何をするのか、何に使えるのかと質問され説明をしてもなかなか理解してもらえず苦労したものです。それが今では値段も下がり一般に普及するとともに1人2台以上持つ人も増えてきました。年賀状などの挨拶状もパソコンやワープロで作成されたものを頂くことが多くなり、ワープロを高齢者が“ボケ”防止に利用する世の中になってまいりました。ようやくコンピューターは特殊な器械ではなくツールであるということが理解され、コンピューターに対する認識がずいぶん変わってきたと思います。

今後駅前センターでは、コンピューターの利用を患者管理だけでなく、電子カルテを目指したいと考えています。各ブースに端末を置き、患者の経過、治療内容を入出力できるようにす

るとともに、大学の鍼灸センターともオンラインで結びお互いに情報交換ができるよう下地作りをして行きたいと考えています。将来は図書館ともオンラインで結び駅前に居ながら文献検索や閲覧ができるようになることを願っています。

オンラインなどコンピューター通信は光通信や衛星通信等の技術革新により今後ますます発達しようとしています。また、コンピューターの発達は出版業界にも大きな影響をおよぼしました。コンピューター写植の副産物として書誌データベースが急成長し、電子出版としてフロッピー・ディスクや特にCD-ROMを使ったものが数多く販売されるようになってまいりました。このようなニューメディアは図書館の役割であるメディアの収集、保存、提供にもさまざまな影響をおよぼすと考えられています。すなわち、本に代えてCD-ROM等の電子出版物の収集、光ディスクなどの電子メディアによる保存、そして検索や閲覧はオンラインにより行うなどです。これらは既に公共図書館や大学の図書館の一部においては取り入れられているものもあり、図書館の未来像としてはけっして遠い先の話ではないと思います。

明治鍼灸大学の図書館も将来に向け、医学・化学・臨床分野のCD-ROMデータベースを充実して頂き、LAN(Local Area Network・特定区域内情報通信網)を構築し各末端機を通して教職員、学生が利用できるコーナーや外部のオンライン・データベースであるDIALOG(ダイアログ)やJOIS(ジョイス)等の検索ができる“情報検索室”を設置して頂きたいと願っています。そして、鍼灸関連分野に関しては情報の発信基地として機能して欲しいと願う次第です。

図書館よりの回答

寄稿頂いた文章の中にいくつかの要望や疑問がありましたのでそれについてお答えしておきます。

- 1) 雑誌の種類をもっと増やして欲しいとの希望ですが、希望のある場合は遠慮なく図書館までお申し出下さい。検討の上妥当な雑誌であると判断がなされれば購入することは可能です。もちろん費用の発生することですので
- 2) 雑誌を一カ所にまとめて欲しい(病院に一部保管されている)との件ですが、これは図書館としてもそうしたいのですが従来からのいきさつがあり、実現しておりません。現在そうなるようお願いしている最中です。既に4部程は返却されております。もう少し時間を頂きたいと思います。
- 3) コピーについては他の諸君からも多くの苦情が寄せられております。曰く“高い、10円にせよ”。もっともな要望ではありますがコピー機は現在新生商会さん(大学のビルのメンテあるいは警備等の仕事を担当)に管理をしてもらっております。問い合わせた結果現在の使用量では10円ではとても採算が取れないので勘弁して欲しいとのことでした。赤字を承知でお願いすることは不可能です。なんとか安くできる方法を考えております。もう少し時間を下さい。
- 4) 指定図書、参考書を長期間借りたいとの件ですがこれは残念ながら規定によりご希望には添えません、しかしそのような申し出があればそれらと同じ図書を揃えます。それについては指定図書、参考書の指定はしませんので長期間の貸出が可能です。どんどんお申し出下さい。なお今後はできるだけそのような指定はしない方向をとる予定です。この件に限らず不都合に思ったことや、要望は遠慮なく図書館まで申し出て下さい。誠意をもった対応をお約束します。
- 5) ビデオの貸出については従来受付で混乱があったようですが、今後は一般の図書と同様に借りて頂くことができます。充分ご利用下さい。
- 6) 図書館を卒業生にも解放できないかということですが、これは従来より本学の学生と全く同じ条件で利用してもらっております。もし近くで利用できないとぼやいている方がおりましたらそんなことはない伝えてあげて下さい。ただし長期貸出については返却方法の問題がありどのように対処するのか決まっております。その点については今の所ご容赦願いたいと思います。

駒の館趣味のコーナー

先生方あるいは学生諸君の中には専門、専攻の学問分野以外に多彩な趣味をお持ちの方も大勢いらっしゃると思います。自分一人で楽しんでいないで学内の皆さんにもその楽しみを分けて頂きたいと思います。そんな思いからそれらを紹介、発表する場を設けることに致しました。今回は初回ですので編集氏の知っている範囲で渡先生に和歌をお願いすることにしました。情景は平成5年9月13日に行われた職員懇親ボウリング大会（園部ファミリーボール）です。ご賞味下さい。次回からはどうか自薦、他薦を問わずドンドンご応募下さい。

短歌 ボウリング

- 大学の懇親の会 ボウリング
若きに混じり一夜楽しむ
- 若きにはまだまだ負けぬ心意気
ボウリング大会 汗流しつつ
- 真っすぐなかなかボール走らずに
グーター出でて 無念の一瞬
- 長寿法のひとつ ストレス解消に
歳も忘れてボウリングしぬ
- 熟練の若者 カーブをきかせつつ
見事にピンのすべてを倒す

明治鍼灸大学大学院 形態学

渡 仲 三

私の読書—お薦めの一冊

“本の無い図書館なんてコーヒーのない……”、全く本の無い図書館はシャレにもなりません。しかし大量の本があっても一読だにされなければもっと悲惨です。今回学内でも乱読、多読を自他ともに認められている先生を図書館でピックアップし、どんな本を、どんな気持ちで、どんな風に読んでおられるのか自らを紹介して頂くことと致しました。皆さんの参考になれば幸いです。初回は教育学担当の市川先生にお願いすることになりました。それでは先生どうぞ！

【書評】河合雅雄著

『子どもと自然』（岩波新書）

市 川 哲

ヒトが高等猿類から分かれ独自の進化の道を歩み始めて 500～600 万年になる。両者の隔たりは大きい、一産一子であること、生理的早産という現象が見られること、成長速度の遅延、群れを作り社会性が発達していること、ネオテ

ニーであることなど、ヒトが猿から受け継いだ諸特徴は少なくない。

サル類がこれらの生態的・行動的適応をもつ理由は熱帯雨林で樹上生活を始めたことによる。

食物が豊富で、しかも競争者が少なく、天敵による脅威があまりない、そのうえ環境が安定している熱帯雨林の樹上はサルにとって楽園である。生態学上の一時消費者である樹上性のサルは植物食を主としており、天敵が少なく食物が豊富だと人口がどんどん増えざるをえない。

しかし食物にも限りがあるため、人口抑制策を何らかの方法で講じなければ自滅の道を歩むことになる。そのため人口を自己調節する方が一回の出産数を一子にする、出産間隔を長くする、生理的早産をする、成長速度を遅くするといったことなのだ。もちろんこれらのことは一挙に成しとげられたのではなく、長い時間のうちに自然淘汰のふるいをかけてで上がった適応形態である。

このような「私なりの仮説」と人類学や生態学の知見をあきさせずに、しかも興味を惹くサルの話をまじえながら展開する著者は、独自

の進化理論を提唱した今西錦司に続く第二世代のサル研究者として知られている。フィールドワークに長けたナチュラルリストであるばかりでなく文才にも恵まれ、草山万兎の筆名で児童文学作品も物するという。

ところで本書は単なるサルの話ではない。

構成は

- I 内なる自然
 - 1 人間はどこへ行くのか
 - 2 サルからヒトへ
 - 3 未熟からの出発
- II 発達と母子関係
 - 1 霊長類の子どもたち
 - 2 愛情としつけ
 - 3 あそびと社会性
- III 学ぶ・教える・育てる
 - 1 行動の進化
 - 2 学習と個性
 - 3 知の楽しさ
 - 4 からだで覚える
- IV 家族とは何か
 - 1 家族の誕生
 - 2 インセスタブー
- V 文化と自然
 - 1 若者が文化を創造する
 - 2 自然に親しむ

であり、人類学の立場から、サルの社会と比較しつつ、人間の自力で生きる能力の衰退や家族の変容などの状況をふまえて、人間の発達に果たす自然の役割とこれからの教育について述べたものである。

その前提は私たちの内にある自然である。サルから生態学・行動的適応の諸特徴を受け継いだことによって、ヒトはあまり特殊化せずに未熟で生まれ、文化をもつ社会の中でゆっくり成長することができる。そうであるならばこれらの諸特徴はヒト化の原動力であり、人間の子育ての基盤、出発点でもあることになる。本書は人間の子育ての現況を霊長類の進化をベースに考えたものであり、たくさん出てくるサルの話は比喩や相似としてではなく「相同のルールにのっての展開」なのだ。

ヒトがヒトとしての歩みを始めてから500万年とすると499万年は狩猟採取の生活であり、その後1万年ほどの農耕・牧畜時代を経て高度産業時代の現代を迎えた。その間、1万年前に10億であった人口は、ここ200年ほどの間に50億に、最近では10年間で10億人の割合で増えている。他方、1900年から85年の間に人口が三倍増になったのに対し、実質GNPは21倍、エネルギー消費量は五倍の急増を示している。

このような爆発的な人口増加と大量生産、大量消費の社会は、内に抜き差しならない南北問題を孕みながら、あらゆるものの人工化を通じて人間の本性(nature)そのものを衰退させているようだ。とりわけわが国のような先進産業国においてはそうである。だからこそ今一度自らの内なる自然に気づき、それを取り戻す努力を始めなければならないのではなからうか。そんなことを考えさせてくれる本である。



図書の検索方法について

附属図書館 福田代見

図書館において自分の目的とする本を捜し出すことは容易なことではありません。まして書名や著者名が分らない場合はなおさらのことです。図書館員といえども数万冊の蔵書の中から利用者の求める本を自分の記憶にたよるだけでは、捜し出すことに限界があります。

そこで図書検索のために本学では、カード目録と検索機を備えており、これらの tool を利用して目的の本を捜し出すことが出来ます。

それではまずカード目録について説明します。図書館で本を捜す場合、このような本、とか、こういうことを書いてある本を見たいというように、なにかある目的を持っています。そして、その目的の本がはっきりしている場合（タイトル・著者・主題・出版年・形態等）と漠然としている場合とがあります。そこでまず第1に、目的の本のタイトルがはっきり分かっている場合は、『書名目録』をつかいます。書名目録をひけば、目的とする本が本学の図書館に所蔵されているか、いないかが、すぐ分かります。

第2に、ある特定の人が書いた著作を捜している場合。例えば「芹澤勝助」の著作とか「夏目漱石」の小説とかというように。こういう時は『著者名目録』をつかいます。著者名目録で「セリザワ・カツスケ」を捜し出せば所蔵し

ている芹澤の本のカードが同じ所に全部集まっています。その中から自分の読みたい本を選べばよいのです。

第3に、書名の分かっている特定の本とか、特定の人の著作を捜しているのではないが、「鍼灸の科学」「公害」などと、その目的とする主題（内容）の書かれている本を見たいという時は『分類目録』で捜します。分類目録は、個々の本の主題に与えた分類記号を標目とした目録ですので、目的の本の主題の分類記号を知らなければなりません。

本学の図書館では、日本十進分類法（NDC）を採用しており、図書の配架もこれで与えた分類記号順になっています。日本のおおかたの図書館（公共図書館・大学図書館等）がこのNDCの分類法を使用していますし、理解していると便利ですのでこの分類法について下記の表1～5を参考に主題に与える記号の仕組みを簡単に説明します。

知識の全文野を9区分（第一次区分）して、9個の類をつくり、これに1～9のアラビア数字を与える（1哲学～9文学）。

これらの9区分のいずれにも属さないか、いくつかの類にまたがる著作を「総記」として0（ゼロ）を与え10個の類をつくる（類目標……

〔表1〕

類(第1次区分) 綱(第2次区分)	目(第3次区分)	小 目(細目)	
		分 目	厘 目
0 総 記	00 総 記		
1 哲 学	01 図 書 館	010 図書館総記	
2 歴 史	02 図書・書誌学	011 図書館政策	1 図書館資料
3 社会科学	03 百科事典	012 図書館建築	2 受入と払出
4 自然科学	04 一般論文集	013 図書館管理	3 目 録 法
5 技 術	05 逐次刊行物	014 資料の収集・整理	4 分 類 法
6 産 業	06 学会、団体	015 図書館奉仕・活動	5 図書配架法
7 芸 術	07 ジャーナリズム、新聞	016 図書館の種類	6 蔵書管理
8 言 語	08 叢 書	017 学校・大学図書館	7 特殊資料
9 文 学	09 [郷土資料]	018 専門図書館	8 政府刊行物
		019 読 書 法	9
			1 一般分類法
			2 専門分類法
			3 分類作業
			4 特殊資料分類法
			5 件名作業

[表2]

日本十進分類法	
類目表(1次区分表)	
0	総記 General works (図書館、書誌学、百科事典、逐次刊行物、叢書)
1	哲学 Philosophy (哲学、心理学、倫理学、宗教)
2	歴史 History (歴史、伝記、地理、紀行)
3	社会科学 Social sciences (政治、法律、経済、統計、社会、教育、民俗、軍事)
4	自然科学 Natural sciences (数学、理学、医学)
5	技術 Technology (工学、工業、家政学)
6	産業 Industry (農林業、水産業、商業、交通)
7	芸術 The arts (美術、音楽、演劇、体育、諸芸、娯楽)
8	言語 Language
9	文学 Literature

表2)

各類は、さらに9区分(第2次区分)し、0の総記をあわせ10個の綱をつくる(綱目表……表3)各綱は、さらに10個の目へ(第3次区分)(要目表……表4)さらに9区分を繰り返しながら(細目表……表5)、一般分類から特殊分類へと順次細分して行きます。表1のごとく区分された項目は、すべて記号で表わされます。これが分類記号で、原則として3ケタ以上で表示します。例えば表2の自然科学は4ですが、400とし、表3の数学41は410とします。最後の0の付加は3ケタにするための記号です。4ケタ以上は、3ケタ目のあとにポイントを付け、例えば「鍼灸」は492.7と表わします。これは4自然科学の中の49医学の中の492臨床医学・診断、治療の中の492.7鍼灸等の主題を意味しています。この記号の読み方はヨン キュウ ニイ テン ナナと読みます。これらのカード目録の記載内容は、分類記号(図書請求記号)、著者名、書名、出版地、出版者、出版年、登録番号、ページ数、本の大きさ、価格が記入されています。

また、分類記号には助記性(記憶を助けるという意味で、覚えやすく工夫された記号法で、

[表3]

綱目表(第2次区分表)抜粋	
40	自然科学
41	数 学
42	物 理 学
43	化 学
44	天文学、宇宙科学
45	地球科学、地学、地質学
46	生物科学、一般生物学
47	植 物 学
48	動 物 学
49	医学、薬学

[表4]

要目表(第3次区分表)抜粋	
490	医 学
491	基礎医学
492	臨床医学、診断・治療
493	内科学、精神医学、小児科学
494	外科学、皮膚科学、泌尿器科学
495	婦人科学、産科学
496	眼科学、耳鼻咽喉科学
497	菌 科 学
498	衛生学、公衆衛生、法医学
499	薬 学

[表5]

細目表 抜粋	
490 医 学 Medical sciences	*獣医学→649
.1	医学哲学
.14	医学と心理、患者心理
.15	医学と倫理 *医療倫理、安楽死一般は、ここに収める
.16	医学と宗教
.7	研究・指導法、医学教育
.76	実験・研究施設、実験動物
.79	医師国家試験
.9	東洋医学、漢方医学、古方、蘭方 → : 402, 105

注. この細目がない項目についても助記表を用いて分類記号を与えることができる。

詳細な分類を可能にする)があり、助記表を用いて形式・地理・時代・言語などを区別することができます。

例 日本古代医学史→490.2103

490 + 02 + 1 + 03 → 490.2 103

医学 歴史 日本 古代 医学史 日本の古代
(第3次区分)(形式区分)(地理区分)(時代区分)

※区分の順序は助記法により定められています。

次にコンピューターシステムによる検索機を

使用しての図書検索方法について説明します。すでに設定されている画面にキーボードで自分の目的とする図書の情報（著名、著者名、分類記号、出版者など）を入力します。この場合、情報の一部分しか分からなくても「部分一致検索」が出来ますので便利です。検索の結果、入力した情報に該当する図書が一覧表（登録番号、書名、著者名、出版者、出版年など）で表示されますので、さらに詳しくその図書の情報が知りたい時は、画面上に青色の疑似カーソル（反

転しているカーソル）が表示されているので、そのカーソルを詳細表示したい資料のところまで↑、↓この矢印のキーで移動させ、**Enter**（リターン・キー）を押します。詳細表示画面には目録カードに記載されているような情報が入っています。

誌面の都合で詳しく説明できませんでしたが、理解しづらい所もあったかと思いますが、疑問点につきましては、図書館ご利用の際に遠慮なくお尋ね下さい。

記事 図書館一般公開

平成5年10月23日タニハ祭が開催されました。雨のため右往左往する忙しいお祭ではありましたが、せっかくのお祭に何もせぬのは悪かろうということで外部からのお客さんに図書館を公開し親しみを持って頂くとともに当大学の宣伝も兼ねればということで初めての企画としてタニハ祭協賛の図書館一般公開を行いました。なにしろ初めてのことでしたので準備等全く不十分でしたが、計50名程度の入館者があり、日頃めったに目にする事のない医学書、あるいは経絡、経穴の図書類を熱心にのぞきこんでおられるようでした。事情が許すなら来年ももうすこし準備をして実施したいと思っております。

同じく平成5年11月24日には11月19日から23日にわたって開催された世界鍼灸学術大会後の鍼灸大ツアーの一環として再び大会参加者に対する図書館公開がありました。規模のわりには東洋医学関連の図書、雑誌が整備されていることもあり、賞賛の声がありました。見学者の素振りにもお国柄がみられました。日本人グループは至って静かで質問もほとんどなく終わる頃ボソボソと個人的に聴かれることが多いようです。それに対して欧米系のグループは紹介が終わるとともに鋭い質問が続出することになります。一番賑やかなのは中国を主体とするアジア系のグループで紹介の話もそこそこで質問はもちろんのこと、お互い同士の話し合いや記念写真のとりっことかでおおはしゃぎの状態となりました。たいへん楽しいグループでした。



新着東洋医学系図書一覧（和書）

（平成5年1月～12月収蔵分）

周易と中医学 楊力原著 伊藤美重子訳・注釈 医道の日本社 1992.09
 傷寒論の謎 一二味の葉微一 田畑隆一郎著 緑書房 1992.06
 東洋医学入門 漢方篇 一古典医学の現代的アプローチ 森下宗司著 谷口書店 1992.10
 傷寒論 図説 白石佳正著 谷口書店 1992.09
 奇経八脈攷全釈 季時珍編著 小林次郎訳注 燎原 1991.01
 中国傷寒論解説 続篇 一基礎と方剤一 劉渡舟著 勝田正泰監訳 東洋学術出版 1992.11
 中国医学の歴史 まんが一漢方のルーツ一 山本徳子原作・監修 藤原りょうじ画 医道の日本社 1992.12
 中医臨床のための中薬学 神戸中医学研究会編著 医歯薬出版 1992.10
 中医臨床のための病機と治法 陳潮祖著 神戸中医学研究会訳編 医歯薬出版 1992.05
 漢方無限 一現代漢方の源流一 矢数道明、坂口弘纂 緑書房 1992.12
 実践漢方治療 東静漢方研究会編 緑書房 1992.10
 陰陽五行説 一その発生と展開一 根本幸夫、根井養吾著 業業時報社 1992.10
 医心方 巻30 食養篇 丹波康頼撰 横佐知子全訳精解 筑書房 1993.03
 傷寒論 弁脈法 平脈法 講義 大塚敬節著 谷口書店 1992.10
 現代医療における漢方製剤 一その適応領域と展望一 有地滋編著 東洋学術出版 1986.07
 今日のアジア伝統医学 一各国の現状および科学的検証の進展一 織田敏次、中嶋宏、大塚恭男編 Excerpta Medica 1985
 漢方診療医典 大塚敬節、矢数道明、清水藤太郎著 南山堂 1988.11
 経穴学の古代体系 一明堂経を復元する一 桑原陽二著 頌文堂 1991.05
 症状による中医診断と治療 上・下巻 趙金鏗主編 神戸中医学研究会編訳 燎原書店 1987.05
 舌診弁証図鑑 原色 日中共同研究 丸山影貞、張洪義著 エンタプライズ 1993.04
 中国医学思想史 一もう一つの医学一（東洋叢書7） 石田秀実著 東京大学出版会 1992.07
 都市文化と東洋医学 マーガレット・ロック著 中川米造訳 思文閣出版 1990.11
 医心方 巻27 養生篇 丹波康頼撰 横佐知子全訳精解 筑書房 1993.06
 中医臨証備要 泰伯未、季岩等著 神戸中医学研究会訳 医歯薬出版 1989.05
 気を科学する 町好雄著 東京電機大学出版局 1993.05
 東洋医学大事典 講談社 大塚恭男、木村雄四郎、間中喜雄編 講談社 1987.12
 黄帝鍼経 校勘和訓 靈枢一～六 丸山昌朗著 黄帝素問刊行会 1965.06～1967.04
 トリガーポイント・マニュアル 筋膜痛と機能障害

第I巻 頭頸部編、第II巻 体幹・上肢編 Janet G. Travell, David G. Simons著 川原群大監訳 エンタプライズ 1992.03～09
 開業鍼灸師のための診察法と治療法 5 五十肩 出端昭男著 医道の日本社 1992.09
 黄帝内経素問 現代語訳 中巻 南京中医学院編 石田秀実監訳 東洋学術出版社 1992.07
 素問・靈枢 日本経絡学会編 日本経絡学会 1992.11
 難経校釈 南京中医学院校釈 林克訳 谷口書店 1992.09
 穴性学ハンドブック 佐藤弘監修 伴尚志編著 谷口書店 1992.06
 針灸手技学 陸寿康、胡伯虎著 浅川要監訳 東洋学術出版 1992.09
 灸療夜話 入江靖二著 緑書房 1992.12
 針灸取穴入門 入江靖二著 緑書房 1990.07
 鍼治療学の基礎と臨床II 鍼作用機序研究の検討 日本編 宮沢康朗著 メディサイエンス社 1991.07
 PIAレーザー連動療法 伊藤修著 エンタプライズ 1992.11
 図解 鍼灸臨床手技の実際 尾崎昭著 医歯薬出版 1987.11
 現代鍼灸臨床の実際 松本勅著 医歯薬出版 1989.02
 標準経穴学 日本経穴委員会編 医歯薬出版 1989.10
 針灸臨床の理論と実際 上・下巻 天津中医学院第一附属病院針灸科 森和監訳 図書刊行会 1988.04
 臟腑経絡学ノート 北辰会出版部編 谷口書店 1991.02
 鍼灸医学における実践から理論へ 藤本連風著 谷口書店 1990.04
 針灸治療の新研究 第二版 長濱善夫編著 創元社 1981.05
 鍼灸医学概論 一東洋哲学思想・歴史篇・理論篇・診療篇一 黒野保三著 東洋医学研究所 1990.04
 鍼灸診断学 黄志良編著 光和写真印刷 1988.04
 逐条解説 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律、柔道 整備師法 厚生省健康政策局医事課編著 ぎょうせい 1990.02
 経絡治療要綱 改訂増補五版 東京はり医学会 1984.07
 あん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師、柔道整備師等の関係法規 第2版 厚生省医務局医事課監修 医歯薬出版 1977.03
 医家のための鍼術入門講座 改訂第2版 間中喜雄著 医道の日本社 1980.08
 経穴断面解剖図解 上肢編・下肢編 カラーアトラス 版振国主編 川俣順一監訳 和田清吉等訳 医歯薬出版 1992.03・12
 針灸臨床の理論と実際 上・下巻 天津中医学院第一附属病院針灸科 森和監訳 図書刊行会 1988.04
 最新 鍼灸治療学 上巻・下巻 木下晴都著 医道の日本社 1992.07、04
 鍼灸と心身の研究 二本柳賢司著 高世館出版 1992.05
 鍼灸医学における実践から理論へ パート2 一いかに弁証論治するか その1一 藤本連風著 谷口書店 1993.10

編集後記

我が図書館報、駒の館便りも13回（号）を数えるにいたりました。少々マンネリとの声も聴かれました。そこで少し変えてみました。先ず表紙を付けました。ページ稼ぎだとは言わないで下さい。変革への試みと解して下さい。目次も付けました。ここいらは許される範囲でしょうか。これまで館報の主要部を占めていた先生方の随筆を思い切って削ってしまいました。それはそれで面白いのですが館報を随筆集にしてしまてはまずかろうという意味です。代わりにユーザーの一言コーナー、書評コーナー更に趣味のコーナーをつくりました。順調に育って欲しいものです。皆様の協力をお願いいたします。図書館のデーターも紹介することに致しました。今回は当たり障りの無い話ですが徐々に生臭いデーターも出せることと思います。乞うご期待。主査には図書館学のうんちくを並べてもらうことにしました。今最先端の知識を吸収している真っ最中、気分はすっかり青春真っ直中。でもあまり急激すぎると反動が心配です。今回は執筆者を編集部の独断で選ばせて頂きました。なにしろ大幅に変えたのでゆっくりと執筆者を選定する余裕がありませんでした。次回より自薦、他薦を問わず数多くの方より原稿を寄稿して頂くようお願い申し上げます。（Y. M.）